

新年のご挨拶

マイケル・パイ
(神道国際学会会長)

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全会員の皆様と、本会を支持してくださる全ての方々に、ご挨拶を申し上げるのは、非常に喜ばしいことです。私たちの活動を楽しみに、貴重な支援と励ましを続けてくださっておられる皆様に、ここで感謝の意を表したいと思います。

神道国際学会は、国内で主催するセミナーやシンポジウム、そして重要な神社を巡るフィールドワーク、国際的な宗教会議への英語によるパネル出展などを通して、神道のさまざまな側面を研究する上で貴重な仕事を続けてきました。このように、私たちは神道そのものを研究し続けるとともに、日本の文化や社会を構成する要素としての神道についても密に研究し続けてきました。私たちは今年度も引き続き、この研究・活動を続けてまいります。

2019年は平成の最後の年となり、また、新しい時代の初めの年となります。現在の天皇陛下が4月末に退位され、憲法に則って皇位の継承が5月1日に行われる予定となっています。秋



には、11月中旬に、新しい時代の最初の大嘗祭が、新しい天皇陛下と参加者によって共に祝われます。大嘗祭は神道の伝統に深く根ざした祭事です。この2つの祭礼は、それぞれ明確に区分されながらも、ある意味ではひとつのものであり、また、皇室および日本国民一般の双方にとって、世代の継承を意味する重要なシンボルです。ですから、私たちは本年度、様々なプログラムを通して、これら一連の行事について勉強していきたいと思っています。

最後に、私たちの目標は、慎重な研究、信頼できる情報の提示、そして双方の議論の機会の提供によって、神道へのより良い理解を深めていくことであると、強調したいと思っています。私たちの学会の特徴である国際的な視点から見て、そのような私たちの研究が世界の安定と平和に貢献すると信じています。

G20 諸宗教フォーラム

9月26日から28日まで、G20 諸宗教フォーラム2018がアルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催され、世界各国から約150名の宗教指導者、政治家、国際機関関係者、研究者らが会して、『公正で持続可能な開発のためのコンセンサスを築く』をテーマに話し合い、本学会からは、同フォーラムとその前身であるG8宗教指導者サミット以来継続して参加している三宅善信理事長が出席した。

9月26日、開会式がアルゼンチン外務省の講堂で開催され、ガブリエラ・ミケッティ副大統領が歓迎の挨拶を行った。また、ローマ教皇フランシスコや全地総主教バルトロメオ一世がビデオメッセージを寄せた。開会セレモニーに引き続き開催された第一全体セッションでは、前カ

ンタベリー大主教のローワン・ウイリアムス卿やペルーのペドロ・バレット枢機卿、サウジアラビア宗教省顧問のアブドラ・アルヒーダン博士、フランス正教会のエマニュエル府主教らが『諸宗教と新たな地球的挑戦』と題してスピーチを行った。

午後からは、会場をシェラトンホテル・コンベンションセンターに移して、第二全体セッションが『労働の未来と不平等と脆弱性への緊急な挑戦』と題



アルゼンチン外務省での開会式を終えて

して、アルゼンチンのホルヘ・トリアカ労働大臣のモデレータの下で開催され、米英や南米諸国の政治家が意見を交換した。因みに、今回の開催国であったアルゼンチンは、G20 諸宗教フォーラムの前日にゼネストが断行され、国際空港まで閉鎖されるという危機的状況であった。その後も3日間にわたって、経済・金融・開発等の専門家と宗教指導者が議論を重ねたが、三宅善信理事長は、27日の『気候変動に対する宗教的アプローチ』のセッションで講演を行いパネリストも務めた。なお、G20 諸宗教フォーラム2019は、三宅理事長がホストを務めて、6月に大阪と京都で開催される予定である。

国際神道シンポジウム報告 『アニメのカミ…若者文化と神道』

椎名潤（岐阜女子大学客員教授・神道国際学会監事）

神道国際学会が主催する第18回国際神道シンポジウム「アニメのカミ…若者文化と神道」が平成30年10月27日、京都駅前（京都市下京区）の「キャンパスプラザ京都」で開催され、日本文化の根幹をなす神道イズムと現代の若者文化を象徴するアニメとの関わりについて、3名の研究者がそれぞれの研究視点に立つ論旨を展開した。

アニメは日本独自の文化として、海外からも大いに注目され、「クール・ジャパン」の代表としての役割を果たすまでになっている今日、神道国際学会が18回目のシンポジウムのテーマに「アニメ」を選んだ意義は大きい。アニメに登場する主人公や物語の根底には、神や神道を題材にしたものが多く見られ、海外にも発信されているからだ。ちなみにクールとは、洗練された、感じがいい、かっこいいという意味で使われている。

そして、米国ペンシルベニア大学宗教学部のジョリオン・トーマス助教授が「重ねられる画像——アニメ技術と宗教意識」のテーマのもと、宗教者としての観点から、『もののけ姫』には、神道的なものが脈々と流れている。今こそアニメにおける宗教性、神道らしさを探求することが必要」と述べ、その企画意図を明らかにした。



開会挨拶をする芳村常任理事

芳村正徳教派神道連合会理事長（神習教教主・本会常任理事）は開会挨拶で、「宮崎駿監督の

「アニメ、アニメマル、アミニズム——『鳥獣戯画』から『火の鳥』まで」と題して、それぞれ講演した。

研究者として7年間、日本に滞在し、ポップカルチャーと宗教との関連性について、たえず

意識し続けていたというトーマス助教授。

「重ねられる画像——アニメ技術と宗教意識」のテーマのもと、宗教者としての観点から、



独自の視点で「神性」を検証するトーマス助教授

最も重要な課題は「宗教の定義」であるとし、「宗教が誰によって、どのように解釈されているか」というテーマは共通の問題意識である」と主張した。

特に「宗教と非宗教の区別」に好奇心を抱いている」とし、「宗教といえ、となく難しい、恐



武道を切り口に講演するベネット教授

ろしい、時代遅れなどのイメージがあるのに対して、ポップカルチャーが新鮮で、若者向きであることは今や、常識となっている。この2極対立の間に、有意義な宗教定義が存在するのではないかという発想で、アニメ・漫画と宗教との関わりを研究してきた」と、その研究意義を強調した。

そして、「アニメの中に宗教的な要素（神・儀礼・神職）を

探すより、アニメ文化の当事者の間に、宗教意識が変わったという根拠を定め、アニメ文化が新しい宗教儀式や教義を生み出した実例を探すがより適切ではないか」と述べ、「そもそもアニメのカミは、どこに（どのように）存在するか。若者の宗教離れが進む今日、一方でアニメファンがその舞台となった場所を『パワースポット』と神聖化し、巡礼するという行為が見られる」など、具体例を示しながら論じた。

また「若者文化と神道」との

関係についても考察し、①若者と神道：その虚像と実像②アニメの中にカミを探索行為の意義③アニメ監督の技術によってカミが作り出される④結論として、重ねられた画像の間に宗教意識が存在する……と分析した。

さらに、若者の宗教離れなど、危機に瀕している宗教を救うアニメの存在は無視できず、アニメの影響により、アニミズム文化に目覚める若者が生まれている。特に若者は、「宗教」という直接的な表現より、「来世」「聖地」「パワースポット」という言葉に魅力を感じている。つまり、「若者はアニメを通して最低限、日本の伝統文化、神道的意識、さらには専門的な『語彙』に接する機会を得ることができ、その影響で一種の宗教意識は保たれている」と述べ、若者の行動に期待を寄せた。

こうした観点から、アニメはカミを培養したり、保存したりする「容器」に譬えられ、その考察には具体的な事例を紹介することが、その核心に迫る近道であると主張。

アニメにカミがどのように登場しているか。『御伽草子』『百鬼夜行絵巻』『付喪神記』などの絵巻物を引用しながら、アニメのストーリーの中に恣意的に神話を題材として取り上げ、アマテラスやスサノヲを活躍させて、登場人物に奇術的な力を与える方法の一つとして、「カミ」

の格好を被せる技法を取っていると解説した。

特に、高畑勲監督の『平成狸合戦ぽんぽこ』などは、明らかに『百鬼夜行絵巻』を参考にしているのではないかと推察した。最後に、トーマス助教授はアニメの技術論にも言及し、「マルチプレーンカメラの発達のお蔭で、より多くのカミが生み出されているのではないか」と結んだ。



鳥をテーマにアニメから絵巻へと遡る奥野教授

次に、自らも剣道7段、なぎなた5段、居合道5段の腕前を持つベネット教授は、「アニメ（漫画）と武道——ポップカルチャーと伝統文化のクロスオーバーについて」をテーマとした。「アニメや漫画を読む時間があつたら、道場で稽古に励む」というベネット教授だが、「敢えて結びつけるとしたら、武道と大衆文化であるアニメ・漫画は密接な関係にあり、参考にな

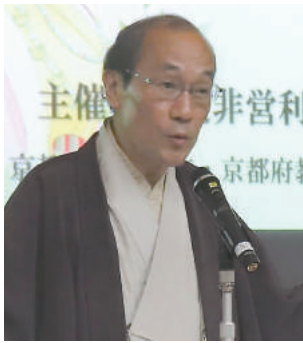
る点も多い」と、アニメ文化を肯定的に捉え、武道を題材にした漫画について解説しながら、武道の宗教性を強調した。

映画『ラスト・サムライ』のヒットにより、世界中で剣道愛好家が増えたそうで、母国ニュージーランドでは一気に700人が入門したという。

ベネット教授によると、古代中国で剣は武器としての実用性から出発したが、最先端技術の結晶であるが故に「神聖視」され、さらに古代日本では「師霊剣」「草薙剣」など、天界と地上を結ぶ「カミの象徴」として崇められ、これが中世に移行すると、「三種の神器」として皇位の象徴となるなど、剣の概念が変遷していったという。

「古武道としての剣術から、明治期を境として、国際化・大衆化した『現代武道』に発展した剣道。その過程で剣道は文学・アニメ・漫画・映画・テレビ・インターネットなどに取り上げられ、さらに発展・普及した」

「武道は実践性だけでなく、芸道性、修養などの教育性、試合に挑むという競技性、剣の神



門川京都市長による来賓挨拶

秘性・三種の神器・奉納演武の宗教性など、様々な特性を兼ね備え、柔道や弓道、空手道などともに、技を極める『道』と位置付けられるまでになった」

さらに、剣道を扱った漫画の一例として、井上雄彦氏による『バガボンド』を紹介。

吉川英治氏の小説『宮本武蔵』をヒントに、時代の転換期に翻弄される剣豪の生きざまを描いた青春漫画。その流れる一貫したテーマは、「自己の我執からの解放」であり、「自然との一体感」であって、ベネット教授は「汎神論的な宗教性を強く感じた」という。

そして、「アニメは若者にとってはフィクションだが、武道は単なる競技ではなく、その精神性を気づかせ、日本独特の世界観・宗教観を目覚めさせるもの」と結論づけた。

奥野所長のテーマは、「アニメ、アニメマル、アミニズム——『鳥獣戯画』から『火の鳥』まで」。山階鳥類研究所長を兼ねる奥野所長は、「鳥」に焦点を当てて、アニメとカミを論じた。

「日本人は鳥を懐かしく眺め（飛翔への憧れ）、『花鳥風月』を詠う。しかし、キリスト教会では、ヒッチコック監督の描く鳥、ハリウッドの鳥のよう、恐ろしいもの、不気味なものとして扱われることが多い」とした上で、この違いを「日

本漫画の原点であり、神様」とする手塚治虫氏の代表作『火の鳥』を通して検討した。

「今日、アニメやマンガをはじめ、オタク、コミケ、コスプレなどのサブカルチャー語は、そのまま国際化しており、クール・ジャパンの最先端を行っている」

「また『千と千尋の神隠し』のDVD海賊版が出回ったり、『ハレ晴れユカイ』ダンスが西宮北口で自然発生的に出現するなど、人気を博している」



活発な議論で盛り上がったパネルディスカッション

さらに「ジブリ作品やドラエモンは世界的な評価を得ている」とした上で、「その共通基盤は手塚作品、特に『火の鳥』にある」との見解を示した。

手塚作品の多文化性については、「宝塚生まれで昆虫好き、阪大医学部を卒業、小松左京氏や筒井康隆氏らとの交流を通して関西SF思考にも接し、上方

文化にも造詣が深いことを紹介。さらに母親からは西洋文化（世界名作文集・宝塚ホテル）やお嬢様文化（タカラヅカ）などの影響を強く受けているが、父親の影響が『欠落』していることも指摘し、これらの生い立ちが、手塚作品に色濃く反映している」と分析した。

タカラヅカ文化はやがて『リボンの騎士』を生む。

『火の鳥』は複雑なジェンダー、多様な価値観と文化、善と悪がモザイク的に織りなす展開を見せるが、人間を越える永遠の時間の中で、「信仰」では埋められない隙間に存在する。手塚作品の根幹は生命（アニメ）であり、『ジャングル大帝』に見られるように、アミニズムと擬人化が特徴。進化論を積極的に受容し、それは人間型ロボット『鉄腕アトム』の登場となったという。

さらに、浮世絵や絵巻物、黄表紙など、日本芸術とアニメには、その表現手法の連続性など、共通点が多く見られることも付け加えた。歌川広重作『名所江戸百景・水道橋駿河台』の並行遠近法や鳥羽僧正作『鳥獣人物戯画』の異時同図法などは、アニメのセルによる疑似3次元表現などに表れているという。

また講演の合間には、同シンポジウムを後援した京都市の門川大作市長が来賓として挨拶。

初めての試みである「アニメ」と「カミ」に焦点をあてた学術的研究を高く評価した。

この後、本会の三宅善信理事長（金光教泉尾教会総長）の司会で、講演者を含めたパネルディスカッションが行われ、活発な議論が展開された。

その中で、東北大学の鈴木岩弓総長特命教授（日本民俗学会会長・本会理事）は「アニメのカミという表現が分かりにくかった。アニメに描かれたカミとか、アニメとカミとした方がよかったのかも……。また神をカミとしたのも気になるところ」と苦言を呈した。

最後に、本会のマイケル・パイヤ会長が閉会の挨拶に立った。この日、神道に縁の深い鳥として紹介されたカササギが英語で



ウスビ・サコ京都精華大学学長の鋭い質問に湧く会場

は「パイ」と発音するため、「マイケル・カササギです」と自己紹介するなど、ユーモアたっぷりの挨拶であった。パイ会長は3つの講演のそれぞれの内容に触れ、アニメとの関連で神道を考えることが、神道が尊重する多様性について様々な切り口を与えてくれたと締めくくった。

『アニメのカミ：若者文化と神道』感想文

月ヶ瀬悠次郎

ひめじ芸術文化創造会議代表

3名の先生方による講演は、それぞれにとっても興味深いものでした。「アニメ」「カミ」「若者文化」というもののキーワードの漠然性がゆえに、「全体としての整合性が取れなかったのではないかとパネリストの鈴木先生が指摘する問題は確かにあったかも知れません。しかし、それを差し引いても、十分に聴き応えのあるシンポジウムでした。

私自身はデザインなどのクリエイティブな仕事を生業としていますから、自他の作品に神性を見出す感覚には親しみがあります。「神の姿を作るのではない。石に宿る神を彫り出すのだ」とは、ミケランジェロの言葉。トーマス先生の指摘する「人の創意工夫によって生み出されたアニメそれ自体に（付喪神的な）神を感じる」感覚は、（日本・神道の枠を超えて）遍く人類が共有できる他者への畏敬の現れではないでしょうか。

トーマス先生の「アニメ」からアミニズムとアニメーションを切り分けようとする試みには、おそらくこの純粋な感覚…日本らしさや神道イズムを当てはめない、剥き出しの畏敬を取り出そうとした試みであろうと解釈しました。

「アニメや漫画を含めたポップカルチャーが、外国人や若者に日本の伝統文化を紹介するキッカケとなっている」というベネット先生の指摘は、首肯しやすいものでした。

手塚治虫の功績とそれを培った関西の文化的土壌を紹介しながら、日本のアニメは（手塚らがゼロから生み出したものではなく）伝統と文化の延長上にある」という奥野先生の指摘も、非常にわかりやすいものでした。

上皇の装束のごとく〈前編〉

井筒與兵衛（株式会社井筒社長／風俗博物館館長）

昨秋に京都市美術館の別館と細見美術館で所功さん発案の「京都の御大札」の展覧会を開催し、三つの屏風を展示しました。東山天皇御即位式・靈元上皇御譲位行列図屏風（個人蔵 皇學館大学佐川記念神道博物館寄託）、御所参内・聚楽第行幸図屏風（個人蔵 上越市立歴史博物館寄託）、二条城行幸図屏風（泉屋博古館所蔵）の三双です。これらを見ていて天皇のお出ましになる行幸の設（室礼・しつらえ）の立派なこと。またこの行列を見る人たちの多さと賑やかさと楽しそうな様子に驚かされました。オリンピック祝勝パレードをより一層華やかにしたようです。また上皇の行列は一段と豪華で晴れやか、派手な装束を着た人たちがいて、お祭りが盛り上がっています。

平安末から鎌倉時代の天皇、上皇、摂関、大臣の肖像が描かれた「天子摂関御影」という3巻の巻物があります。14世紀半ば過ぎの作品とされています。京都の曼殊院所蔵で明治に皇室に献上され、現在、宮内庁書陵部に保管されています。ここには21人の天皇と上皇が描かれています。天皇は紅の袴を履き、白固地綾小葵文入りの袍を着用した御引直衣の姿、または黄櫨染や青色（グリーン）の束帯の姿で長い裾を引いています。上皇は出家した法皇の装束で、袈代に香色の五条袈裟の姿や臥蝶文の冠直衣、もしくは烏帽子を被り直衣を着用して描かれています。袈代は礼服に代わる僧侶の宿直姿です。有文の長く引きずった袍は、方立の襟・僧綱襟になっています。仏前の姿ではないので、略の五条袈裟をつけています。

近世以降の天皇の普段着は、御金巾子冠を被り、白の着物に、女官の半分くらいの赤の御長袴姿です。絵で見る姿は長く裾を引く黄櫨染の束帯、青色の束帯や御引直衣に赤い御長袴です。袴の紐は右側に三段に輪を作ります。これが女官との結び方の違いとなり、立鼓の綴じもあります。（伴大納言絵巻）を参照）（後編へ続く）

●袈代に五条袈裟姿（法皇）



さしぬき 指貫 [奴袴] 袈代の欄

きゅうたい そうごうえり 袈代の僧綱襟

五条袈裟の威儀[紐]

五条袈裟の小威儀[小紐]

五条袈裟

ひおうぎ 檜扇

じゅず 数珠

●御引直衣姿（天皇）



第21回国際神道セミナー開催について

平成31年3月5日(火)に、平成31年度社員総会と第21回国際神道セミナーを、東京駅に直結する関西大学東京センター（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 9階）内の講義室で開催いたします。

社員総会では例年通り、前年度活動報告および次年度の活動計画について提議し、総会終了後、御世替りと大嘗祭をテーマに国際神道セミナーを開催いたします。連綿と続く皇位の継承による即位の礼・大嘗祭、また、200年ぶりとなる上皇の誕生について、内外の専門家が様々な角度から論じます。

※開催概要やお申込み方法につきましては、会員各位へ改めてご案内いたしますので、ふるってご参加ください。

『御世代わりと日本人』

金光教泉尾教会 総長／(株)レルネット代表 三宅善信

いよいよ平成の御世もあと百日余となった。日本は、近代150年の間に、明治維新と大東亜戦争の敗戦という、場合によっては欧米列強に国を奪われかねない二度の国難に瀕したが、そのたびに国民が一致団結して国難を見事に乗り越え、より一層「立派な国民国家」に変貌させた。そのいずれの国難にも、紐帯としてバラバラになりかけた国民と国家を強く結びつけたのは、いうまでもなく天皇の存在であった。

光格天皇以来、二百年ぶりに実施される今回の「譲位」のきっかけを作ったのは、今上陛下ご自身による平成28年8月8日の国民に向けてのビデオメッセージであったが、私はこの「おことば」の放送を、明治天皇による慶應4年3月14日の『五箇条の御誓文』の渙発や、昭和天皇による昭和20年8月15日の『終戦の詔勅』の玉音放送に匹敵する出来事だと認識している。

今回の「おことば」の重要ポイントは、「天皇の務めとして、何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ることを大切に」考えて来られた陛下が、「天皇の高齢化に伴う対処の仕方が、国事行為や、その象徴としての行為を限りなく縮小して

いくことには、無理があろうと思われます」と指摘された点である。この「おことば」によって直接、国民に宸襟を吐露される直前までは、聖寿を重ねられた陛下に対して「公務を縮小」あるいは「摂政が代行」、さらには「皇室祭祀の簡略化」という方法で補うことが政府をはじめ有識者からの意見として大勢を占めつつあったが、こういう対処療法的な問題解決へのアプローチについて、陛下が敢然と否定されたのである。

皇位にあること28年（放送当時）、「全身全霊を込めて国民と苦楽を共にし、常に国民の気持ちに寄り添おう」とされた今上陛下のご姿勢に多くの国民が共感を覚えたからこそ、日本国憲法第四条によって「国政に関する権能」を有さない天皇からの事実上の発議により、皇位の継承という国体の本質に関わる重要案件が動き出したのである。しかも、その動機として、「何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ること」という行為を観念的な祈りとしてではなく、具体的な儀礼としての祈りとして行うことが天皇の務めであると直接国民に訴えられたのである。

ところで、現在、政府は産業界からの強い要請で、労働者の人手不足を解消するために、実質的に「移民解禁」へ政策を大転換しようとしている。律令国家の形成を急いだ飛鳥時代にも、近代国民国家への転換を図った明治時代にも、高度な先進技術を有した帰化人やお抱え外国人が重宝されたが、それらはあくまで彼らの持っている高度な先進技術を吸収するためであって、今回の入国管理法の改正（悪）のように、単純労働者を大量に受け入れるのとは意味が違う。もし、日本人の若者に人気のない「安い給与できつい仕事」を外国人労働者にさせようとしているのだったら、外国人労働者にも失礼な話である。

現在既に、総人口の2%に当たる250万人の外国人労働者がいるが、もし、実質的な移民解禁へ政策転換をしたら、平成の次の時代が終わる頃には、おそらく日本の総人口の20%は「非日本人」になってしまうであろう。そうなってしまえば、国民と国家の紐帯としての天皇制が維持できるかどうか判らないではないか…。古代中国で創られた「民」という漢字の原義は「(人民の)目を針で突き刺して見えなくさせる」という意味だそうである。一方、古事記や日本書紀では、「民」という漢字を「おほみたから」と訓じさせている。今一度、この意味をよく考えてみて欲しい。

新役員体制が始動

特定非営利活動法人である神道国際学会では、2年ごとに役員が改選が行われる。平成30年度末開催の臨時社員総会を経て、理事12名監事1名が選任され、本年度より2年間の任期を務めることとなった。

選任された役員の中から、会長としてマイケル・パイ氏、理事長として三宅善信師、常任理事として芳村正徳師、ムケンゲシャイ・マタタ師が再度選出され、新たに副会長として奥野卓司氏、常任理事として塩谷崇之師が選出され、この13名の役員によって、より良い活動を牽引していくことを確認しあった。

また、長年理事を務めていただいたマーク・テールウェン氏（オスロ大学日本語学科教授）は、大学でのご職務がより多忙になり、残念ながら理事を辞されることとなった。テールウェン氏は本会設立初期から外国人神道研究者の第一人者として、本会の活動に積極的に関わってくださった。その功績に改めて感謝を表すとともに、今後のますますのご活躍を祈念する。

理事・監事の顔ぶれは別表のとおり。

役員(平成31年1月現在)

役 職	名 前	所属団体・肩書き
名誉顧問	ジョージ・L・ケアリー (The Lord George Leonard Carey)	第103代カンタベリー大主教
会 長	マイケル・パイ (Michael PYE)	マールブルク大学名誉教授／元国際宗教史学会会長
副会長	奥野 卓司 (おくの・たくじ)	山階鳥類研究所所長／関西学院大学先端社会研究所所長
理事長	三宅 善信 (みやけ・よしのぶ)	金光教泉尾教会総長／(株)レルネット代表取締役
常任理事	芳村 正徳 (よしむら・まさのり)	神習教教主／教派神道連合会理事長
常任理事	ムケンゲシャイ・マタタ (Mukengeshayi MATATA)	オリエンス宗教研究所元所長
常任理事	塩谷 崇之 (しおのや・たかゆき)	真和総合法律事務所弁護士／秩父今宮神社宮司
理 事	アレキサンダー・ベネット (Alexander BENNETT)	関西大学国際学部教授
理 事	オ・ソンファ (呉 善花)	拓殖大学国際学部教授
理 事	ファビオ・ランベッリ (Fabio RAMBELLI)	カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授
理 事	鈴木 岩弓 (すずき・いわゆみ)	東北大学総長特命教授／日本民俗学会会長
理 事	宮崎 俊彦 (みやざき・としひこ)	国際縄文学協会理事長
監 事	椎名 潤 (しいな・じゅん)	岐阜女子大学客員教授／元中外日報社取締役編集局長



神社巡り⑫

塩谷崇之

秩父今宮神社宮司

ひじりじんじや

聖神社

●埼玉県秩父市黒谷2191番地

関東平野を「荒川」沿いに遡上し、かつて「秩父往還」と呼ばれたた国道140号線を秩父方面に進むと、左手に古銭の紋に「聖神社」と記した黄色い幟が多数立ち並んでいる。国道を左折し、畑の間の細い路地を少し入ると、駐車場があり、小高い山へと続く狭い石段の奥に、白い石鳥居が聳え立つ。

一見すると何の変哲もない村の鎮守さまのようだが、朝早くから駐車場は満杯で、多数の参拝者が訪れている様子。車を降りて石段の下に立つと、『銭神様』『金運』といった文字が目飛び込んでくる。

この秩父市黒谷という地は、日本初の流通貨



拝殿へ続く石段

幣『和同開珎』が鑄造される契機となった和銅（天然銅）の発見地。第43代元明天皇の御代、武蔵国秩父郡において、我が国で初めて高純度の自然銅が産出され、朝廷に献上された。大いに喜んだ天皇はすぐに元号を『和銅』と改元し、産出された銅を用いて貨幣を鑄造するとともに、産出地の鉱山を「祝山」と名付け、神籬を立てて「神」として祀った。その後、金山彦尊（鉱山・鉱物の神）、国常立尊（国土生成の神）、元明金尊（元明天皇）などを合わせ祀り、「聖神社」が創建された。

祭神の金山彦は、日本神話では、伊邪那美が火之迦具土（火の神）を産んで火傷をし病み苦しんでいるとき、その嘔吐物から化生した神とされている。鉱物資源の精錬過程と合致するのは、古来、鉱物資源や鉱業がまさに神の御恵・御業と考えられていたことを窺わせ、興味深い。

さて、和銅石を産出したこの「祝山」やその周辺では、近世までは銅の採掘が続いていたようである。近代に入り採掘も行われなくなり、地域の氏神としてひっそりと祀られていたが、昭和8年1月11日和銅奉獻1225年を祝う第1回「和銅祭」が斎行されたのを機に「和銅遺跡」が再度世間の耳目を集めるようになり、さらに平成20年和銅奉獻1300年の「和銅祭」を機に、我が国の貨幣の発祥の地という由緒に因んで、聖神社を「銭神様」として大々的に世に売り出したことで、「金運隆昌」の利益にあや



拝殿と和同開珎の大きな碑

かろうとする多くの参拝者で賑わうようになった。

参道の石段を上がると、正面に、朱塗りの威風堂々とした社殿が聳えている。本殿は流造で周囲には立派な彫刻が施され、拝殿は3間四方の入母屋造。18世紀初頭に大宮郷（現在の秩父市）の工匠大曾根与兵衛により、秩父市内の今宮神社（八大権現社）の本殿として建立されたが、昭和39年、聖神社社殿として移築された。

拝殿の脇には、和同開珎を象った大きな碑が置かれており、フォトスポットとして人気があるようだ。

決して広い境内ではなく、神職の常駐もないが、参拝者のために拝殿前に授与品などが置かれるなど心配りが行き届いている。「金運」の御利益にあやかった参拝者から「宝くじが当たりました」「商売が成功しました」などといった御礼状や御礼参りの絵馬などが多数飾られており、目を楽しませてくれる。



春日奥山周遊記念

マイケル・パイ（マールブルク大学名誉教授）

この絵葉書には奈良の春日大社を中心とする観光地が表されています。表面には「ゆうびんはがき」と左から右へ印刷されておりま。この書き方向は1945年以降に使われたものです。同時に、「carte postale（フランス語で『はがき』の意味）」とあり、また一般的なスタイルで印刷されていることから、戦前の様式に似た戦後間もない頃の絵葉書であると推測されます。

絵には、街の鉄道駅から始まって神社の後ろの山へ登り反対側から降りてくる周遊路が、赤で示されています。周遊路は神社をぐるりと回り、絵葉書の4分の3を占めています。神社への参道は二つの鳥居によって示されており、これは山を巡る周遊路には含まれていません。一方、山の上部は「奥山」と呼ばれ、文字通り「遠い山」を示しています。これは山が春日大社の一部であることを示しつつ、春日大社そのものが中心的なロケーションであることを強調しているのです。

春日大社は中世に藤原一族の社として造営され、多くの点で重要な社です。背後にある三笠山は若草山としても知られ、もともとの春日大社はここにありました。現在では摂社として位置付けられている小さな本宮神社が頂上にあります。絵葉書には、この山はハイキングを楽しむのに適したレクリエーションエリアとして描かれています。これは、「春日奥山周遊記念」というタイトルからもわかることです。

小さな宗教的なスポットが数多く描かれていますが、今日の参詣者がそれらを訪れることはあまりありません。本宮神社ですら、山に一步も登ることなく本宮遥拝所から仰ぎ見るだけです。現在のパンフレットは本殿とほか一つ二つの重要な場所に特化しています。例えば、近隣の若宮は「若宮巡り」の筆頭として挙げられており、このような「ミニ巡礼」は一日がかりで山を巡る周遊路の手軽な代替となっているのです。



現在のパンフレット



話題のこの人

ミエナイモノをミル

永原順子博士

大阪大学言語文化研究科助教



一昨年、「擬人化の原点について」見えないものを「見る」こと」を執筆（小松和彦編『進化する妖怪文化研究』せりか書房、二〇一七年一〇月、共著、第三部「伝承と創作・前近代と近現代のあわい」）。

未知のもの、存在しないものに人々がアプローチすることで、伝承や信仰、能などの演劇が生まれてきたこと、その思想は自然科学の分野にもつながっていることを指摘し、人間の想像力（妄想力）を、「擬人化」をキーワードとして解き明かすことを試みた。

この「ミエナイモノをミル」という観点から、様々な文化現象を分析している。

水難事故と怪異伝承

人は、天災や事故が起きると「ミエナイ」理由を探る。「水難は人々の信仰心や宗教観に大きな影響を与えてきた。例えば日本では、カッパなどの怪異伝承や、溺死が神の意思であると語られる説話などにそのような影響を見ることができると語る。水難防止教育を国内外で推進

する水難学会との共同研究において、各国の水に関する怪異伝承の調査を行ってきた。「日本では、河童が足を引っ張るという伝承があるが、フィリピンではシヨコイ（人魚のような妖怪）、マレーシアではワニの妖怪、など、各国の文化背景に即したイメージが語られる」。

今後は、各地の原始的信仰（民間信仰）と外来宗教との重層構造を精査しつつ、各国における災害の種類や頻度の差異も考慮にいれて分析を行うという。

小謡と宴席

能の成立時期、謡だけを楽しむという文化があり、身分を問わず多くの人々に愛好されていた。「特に、謡の一部＝小謡（こうたい）を謡う風習は、冠婚葬祭の宴席において盛んに行われてきた。結婚式での「高砂」の小謡がよい例」。宴席のスタイルの多様化に伴ってその風習は衰退してきているが、伝統を守っている地域もある。各事例において、小謡は宴席の時空におけるミエナイ枠組を創り出しているという。

さらに小謡が共同体の形成に関与している例もある。人々の文化的行動規範の形成と小謡との関わりをまとめた論文を作成中。

人工知能の身体観

「文楽人形や能役者のしぐさに対して、我々は畏怖し、魅了され、様々な伝承を生み出し、人間とは異なる魂の存在を感じることもある。また、実体を伴わずミエナイものの存在が、神格化や妖怪化を経て畏怖の対象となることも少なくない」。

これら「既存」の異界と人間との関わりとを論ずる視点は、人工知能と人間との関わりでの解明に何を寄与できるのか。

逆に、人工知能によって、身体観の輪郭があらわになるともいえる。その相互作用によって様々な事象が生成されている過渡期ともいえる状況の中で、さらなる議論を続けていきたいと話す。

和紙植物(ものと人間の文化史181)

有岡利幸[著]

法政大学出版局、2018年9月15日刊、317ページ、ISBN978-4-588-21811-8、本体3,100円+税

評／庄司一平(東北大学非常勤講師／宗教学)

書評

著者は、長年にわたる林野行政の実務経験を活かし、第47回毎日出版文化賞受賞の『松と日本人』（人文書院、1993年）ほか、我が国の植物文化に関する著書多数を有する。本書は、「和紙の原料とされる雁皮[がんび]、三桎[みつまた]、楮[こうぞ]の原木と人々との関わりを調べたもの」（まえがき）であり、和紙原料となる三種の繊維植物に関するかような植物文化誌はそれ自体稀有なものである。本書の中心を成すのは、紙漉きや工芸使用の前段階、すなわち植物育成から伐採、皮剥ぎまでの工程技術の比較・追跡と、奈良時代以降から現代にいたる紙郷と製紙業の発展と衰退についての林業経済史的記述である。

栽培困難だが高品質の斐紙^{ひし}や鳥子紙^{とりこかみ}、保存用文書や藩札の原料となった雁皮。室町後期以降栽培が進み、明治期になると紙幣原料として繁栄し、今日では観賞用として活路が見出されている三桎。紙原料となる以前にも、建造物の結束材や海人の命綱^{たくなわ}（桄縄／桄縄）としてその長く強靱な繊維が活用され、白妙や太布の布地としても利用された楮。本書はこれら和紙原木の分類や生育環境ならびに栽培方法に関する自然史に加えて、産地と方言の考証、衣類や祭具など生活文化財としての用例など、我が国の和紙文化史についても豊富な話題を提供してくれる。雁皮の語源を「かにひ（神斐／紙斐）」とする日本語学的仮説、日本銀行券の原料三桎の栽培を奨励した大蔵省紙幣寮抄紙局（王子工場）に、越前五箇の紙祖神（岡太神社の川上御前）が分祀された経

緯、木綿や栲^{くわ}が用いられる祭具の白さと清浄性に関する宗教学的的分析など、読者は和紙植物の博物学という世界に引き込まれてゆくことになる。

平成26年ユネスコ無形文化遺産登録された「和紙 日本の手漉和紙技術」（石州半紙、本美濃紙、細川紙の工芸技術）は、原料に国産楮のみを用いる等、伝統的製法による製作技術が評価対象だ。ただ、今日原料楮の国内生産面積・生産量（黒皮換算）はともに昭和40年と比較すると60分の1以下で、山地傾斜地が主たる生育環境であること、人力に多くを依存する各工程、和紙需要の縮小と原料価格の低迷、生産者の高齢化と後継者不足、獣害の増加などが相俟って、輸入原料に依存しつつあるのが現状である。

「それで漉いた紙が、伝統ある和紙だと世界に向けていえるだろうか」（あとがき）との指摘を評者なりに敷衍すれば、原料が国産か外国産かということ以上に、原料としての和紙植物の持続的な調達と加工こそが手漉和紙技術の自然的・経済的基盤だ、ということであろう。このことは、例えば「和食文化」と第一次産業としての農漁業にも当てはまる重要な視点だと思われる。人々が生産にかける手間とモノの価値（希少性から聖性にいたるまで）について幾つもの手掛かりを与えてくれる本書は、我が国における「日本文化」の足元を考える一助となるに違いない。



理事の業績・研究報告

奥野卓司副会長

学術講演等

6月8日 第23回 労使政策
フォーラム講演 関西電力総連
「AI・ロボットによる近未来
の産業の変容と労働のありか
た」(於 リーガロイヤル N
CB)

8月30日 日本カレンダー暦文
化振興協会 第8回定時総会
「来年に迫る改元や新元号につ
いて」コーディネート(於
東京大学 弥生講堂)

10月27日 第18回国際神道シン
ポジウム アニメのカミ「アニ
メ、アニマル、アニミズム…鳥
獣戯画から火の鳥への日本文化
誌」(於 キャンパスプラザ京
都 第2講義室)

その他の活動

4月21日 『読者と報道』委員会
2018年第1回会議「新五国
風土記」ひょうご彩祭」「ひょ
うご経済面」(『神戸新聞 朝刊』
9面)

11月3日 我孫子「ジャパン
バードフェスティバル」実行
委員長(於我孫子市)

11月12日 京都市動物園・山階
鳥類研究所連携調印(於京都市
役所)

三宅善信理事長

7月29〜8月1日 米国ジョー
ジワシントン大学で開催された

第35回IARF世界大会に芳村
正徳理事と共に参加。国際評議
員兼財務委員長に就任。



ワシントンの教会で講演する三宅善信理事長



第33回国際指導者会議で講演する三宅善信理事長

9月26〜28日 アルゼンチンの
ブエノスアイレスで開催された
G20諸宗教フォーラムで講演。
10月13日 京都清華大学の創立
50周年記念式典に列席。
10月20日 一燈園の光泉林90周
年記念式典に列席。祝辞を述べ
る。

10月23日 帝国ホテル大阪で開
催された日本国際連合協会関西
本部主催の第73回国連デーの記
念行事で、同協会の副本部長兼
理事長代行として開会挨拶。
11月19日 大本本部で開催され
た大阪府宗教連盟の平成30年度
理事総会に列席。

12月11日 論文「日本社会存続
の危機——生前讓位がもたらした
問いかけ」が掲載されたオビ
ニオン誌「伝統と革新」第31号刊
行。



鈴木岩弓理事

書籍

3月10日 『死者／生者』論——
傾聴・鎮魂・翻訳——(鈴木岩弓・
磯前順一・佐藤弘夫編著)ペリ
かん社

4月27日 『柳田國男と東北大
学』(鈴木岩弓・小林隆編著)東
北大学出版会

7月1日 『現代日本の葬送と
墓制 イエ亡き時代の死者のゆ
くえ』(鈴木岩弓・森謙二編)吉
川弘文館



『神道とは何か What is Shinto?』
——小泉八雲のみた神の国、日本
Japan, a Country of Gods, as
Seen by Lafcadio Hearn——
平川祐弘／牧野陽子、錦正社、
2018年、1200円(税別)

『戦後史のなかの「国家神道」(史
学会シンポジウム叢書)』
山口輝臣、山川出版社、201
8年、4000円(税別)

『植民地朝鮮の民族宗教』
青野正明、法蔵館、2018年、
3800円(税別)

『カミとホトケの幕末維新——交
錯する宗教世界 龍合叢書』
岩田真美／桐原健真(編)、法蔵
館、2018年、2000円(税
別)

『日本の祭り解剖図鑑——その起
源と日本人の信仰がマルわか
り』
久保田裕道、エクスナレッジ、
2018年、1600円(税別)

『神道が世界を救う』
マンリオ・カデロ／加瀬英明
【対談】、勉誠出版、2018年、
900円(税別)

『神社崩壊 新潮新書』
島田裕巳、新潮社、2018年、
760円(税別)

『神田明神のころ』
大鳥居信史、春秋社、2018
年、1600円(税別)

『世界を読み解く「宗教」入門——
ビジネス教養として知っておき
たい』
小原克博、日本実業出版社、2
018年、1700円(税別)

『アトムの誘惑 原発問題を神
道・仏教・キリスト教・新宗教は
どう見たか』
島崎義孝、ノンブル、2018
年、2500円(税別)

『日本史の深層』
矢作直樹、扶桑社、2018年、
1100円(税別)

『神社のおしえ(新版)』
神田明神、小学館、2018年、
1000円(税別)

『空の世界へ——最もシンプルな、
生の秘密』
コラール、ルドルフ・バレンタ
イン(著)／コラール伊織(訳)、
ヒカルランド、2018年、1
815円(税別)

神道国際学会からのお知らせ

- ◎いつも社報や刊行物をお送りください、ありがとうございます。
- ◎ご入会のご案内:神道国際学会にはどなたでも入会できます。資料をご請求ください。

一般会員(年会費)	3,000円
賛助会員(年会費)	10,000円
(法人会員(年会費)	100,000円)
特別賛助会員(個人・一時金)	30,000円
特別賛助会員(団体・一時金)	500,000円

NPO法人 神道国際学会 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-1-15 ベスト用賀2F
Tel. 03-6805-7729 Fax. 03-6805-7769 info@shintou.org

編集後記

皆様、新しい年をお元気で迎え
られたことと存じます。今年、
我々は御世替りという大きな体
験をします。本会では、御世替
りについて学び、考えてゆく企
画を立てております。その第一
弾として、今号では、長きにわ
たり皇族方のご装束に関わって
こられた京都の株式会社井筒社
長井筒與兵衛様に上皇と天皇の
ご装束について解説をいただき
ました。これは、夏の59号に続
きますので、楽しみにしてくだ
さい。また、連載記事や、新役
員体制、昨秋のシンポジウムに
ついて、ご報告記事を掲載して
いますので、ぜひお読みいた
だき、ご感想をお寄せいただき
ますと幸いです。